

「平成25年度主要農作物品種審査会(水稻・大豆)」会議録

1 日 時：平成26年2月18日(火) 午前10時から正午まで

2 場 所：場 所：宮城県行政庁舎 9階 第一会議室

3 出席者

- (1) 審査会委員：齋藤満保, 加藤房子, 國分牧衛, 中鉢充, 布田順一, 丸山恵史, 高橋正道, 水多昭雄
- (2) 審査会幹事：高橋芳弘, 小島俊夫, 日塔明広, 千葉

4 会議録

(午前10時30分開始)

○ 事務局(千葉班長)

ただ今より、主要農作物品種審査会を開催します。

開会に当たり、今回國分会長から、会長辞任の申し出がございました。委員につきましては引き続き続け居っていただけるという事ですが、会長の選出を改めてしていただきたいと思います。会長の選出にあたりましては、副会長であります布田委員を座長に決めさせていただきたいと思いますので、布田委員よろしくお願いたします。

○ 布田委員

それでは、暫時の間座長を務めさせていただきたいと思います。会長の選出につきましては、主要農作物品種審査会条例第4条1項により委員の互選によるとされております。会長の選出についてはいかがいたしましょうか。

○ 國分委員

私の右隣に座っておられます、齋藤委員が適任だと思います。

○ 布田委員

ただいま齋藤委員の推薦がございましたがよろしいでしょうか。

○ 委員 異議なし

○ 布田委員

それでは、皆様から異議ないということで、齋藤委員に会長をお願いしたいと思います。齋藤委員からあらためまして、御挨拶をいただきたいと思ひます

○ 齋藤委員

ただいま選任いただきました。國分会長のような名さばきとはいきませんが、皆様の暖かい御協力のもと進めさせていただきたいと思ひます。

本日は、たいへんお忙しいところ品種審査会に御出席いただきありがとうございます。2月の立春すぎましたら75年ぶりに35cmの積雪という事で、1週間後もまた雪が降りましてこちらに出向くことも大変だったかと思ひます。

さてこの審査会は宮城県知事の諮問を受けており、本日は3つの項目がございます。奨励品種に指定するものではありませんが、品種の廃止についてと平成26年の奨励品種決定調査に供する品種ということで、水稻大豆について審議いただきます。よろしくお願ひします。

県内の状況をお話ししますと、水稻については、作況指数104のやや良で品質も良く1等米比率も90%に迫るといふことで今年、胸を張って宮城の米はとうまいと言えます。一方大豆については、

昨年24年度から比べると5%以上増加して9500haほど作付があるようです、残念ながら雨の影響や台風で収量はあまりよくないようです。一方品質はミヤギシロメやタチナガハは良いようですが、タンレイは紫斑病やその他の障害であまりよくないようで、品種による差があるようです。タンレイは、昨年も品質低下が見られましたが、新品種のアキミヤビへの期待も高まるようです。

一方で国の政策も変わっております、2018年から減反政策が廃止になるということで、土地利用型農業も様変わりすると思われます。政策を生かすためには水田のフル活用が必要となり、大豆などの転作作物及び加工米、飼料用米の推進が重要です。

そういった中で、安全安心な農業を展開するため、生産性の向上はもちろんですが、消費者あるいは実需者のニーズに即した生産が必要になります。われわれ品種にかかわるものといましては優れた品種を奨励品種として採用していくことが重要であります、これから事務局より説明いただきますが、それぞれのお立場から忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○ 事務局（高橋班長）

それでは、審議に入りたいと思っております。ここからの進行は、主要農作物品種審査会条例第5条1項の規定によりまして、会長が議長となることとなっておりますので齋藤会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 齋藤会長

では審議に入りたいと思っております。まず（1）水稻奨励品種「もちむすめ」の廃止について事務局からお願いします。

○ 事務局（今関）

水稻奨励品種「もちむすめ」の廃止について審議事項資料により、説明。作付面積が減少していること、昨年新たな品種が、糯として奨励品種に指定されたことを理由に廃止の検討を提案。

○ 加藤委員

一消費者的意見ですが、もちむすめは一般消費者が購入できる品種なのか業務用なのか。他のもち品種はどのようなものがあるのか教えてほしい。

○ 事務局

一般的にはほかの品種に混合して販売されているようです、一部直売などであるかもしれないが、もちむすめ単体では一般的な販売はない状況であります。他の品種は、みやこがねもちが県内では主要な品種であります。

○ 秋山委員

東北糯199号について、みやこがねに比べてどうなのか、早生、晩生はどうなのか教えてほしい。

○ 日塔幹事

参考資料の12ページをご覧ください。現在の奨励品種の特性表です。中生の早でヒメノモチ、晩の早ということでみやこがねもち、もちむすめ、東北199号はひとめぼれよりはやや遅い。199号はもちむすめに比べると、いもちが極強。耐冷性も極強で栽培特性に優れる品種です。もちむすめとの違いは切り餅にした場合に硬くなるのが遅いなどの特徴があります。また粒が大きさが大きいのでふかしなどに使っていただけたらと思います。

○ 齋藤会長

私は、もちむすめを気に入って作っていました。倒れにくい部分ですごく作りやすかった、今ご紹介いただいた199号は、さらに作りやすい特徴で非常に期待できると思っております。それでは水稻奨励品種「もちむすめ」を廃止することについては特に御異議もないようですので原案の通りといたしましてよろしでしょうか。

続きまして、平成26年度奨励品種決定調査に供する品種（水稻）についてご説明をお願いします。

○日塔幹事

（資料により、平成25年度 奨励品種決定調査成績概要及び平成26年度奨励品種決定調査に供する品種（水稻）について説明。

○ 齋藤会長

ありがとうございました。

3ページを御覧ください。予備調査で20系統、本調査で10系統ということでそれぞれご説明頂きましたがご質問がありましたらお願いします。

○ 国分委員

早生はやまのしずくを超えるもの、中生がひとめぼれ、晩生はコシヒカリという事で調査にはそれぞれターゲットになる品種を基準にしているが、ササニシキの食味食感の場合、ササニシキを基準にしてササニシキをターゲットとした場合、ひとめと比較すると粘りの項目で減点され、低くなる。笹のような食官では、粘り減点されて総合点でひとめより落ちる評価になるので、ササニシキなみの品種を評価する場合は、ササニシキを基準に粘りも含めて食味評価をしないと、ササニシキ並を上回るものではないかと思いますがいかがでしょうか

○ 事務局（日塔部長）

今回はササニシキとの比較は、(2)に該当する場合はササニシキもいれて食味の評価をやっていきたいと思えます。

○ 齋藤会長

地元のササニシキで実際に需要もあるためその辺の御検討いただきたいです。

○ 秋山委員

今回低アミロース米に力をいるようですが、需要があるのか。私もたきたてを作っていましたか昨年やめました。確かに低アミロース米は使い方によっては重宝される品種です。業務用に使う中でまなむすめは人気があるが、価格に比較する一段品質落ちるといってなかなか使われない。業者は、歩止まりがよくそちらを要望しているようで、それに低アミロース米を加えて美味しいものを作っている。

私たちの農協は昨年から本格的にササニシキを増加している。しかし昨年の食味検定はA'から抜け切らず、本来は特Aよりまずいという評価だが、それでもササニシキの需要は多くJAでも前向きに取り組んでいる。宮城はササニシキとひとめぼれが代表的な品種であるが、全国的には、コシヒカリが主流でどこにでもコシ系統がある。希望としてはササニシキに代わる品種をぜひ採用してほしい。

○ 事務局(千葉幹事)

低アミロース米については、北海道のコメは、低アミロースが主流になっている。低アミロースはアミロース含量が10から13%程度で高温でもアミロース含量が変動しないタイプの遺伝子を持った系統である。低アミロース米は混米している事例もあるので、そういったところも考えてたたくにしたい。単品で食べてもおいしい。業務用としてはロットが必要なので販売戦略が必要と考えます。ササニシキの食味食感を持つものということで194号は作り方によっては、やや食味が落ちるので、環境保全的な作り方でマニュアルや栽培指針を活用しながら本来の特性が生かせるように進めているところです。食味ランクは、コシヒカリなどの粘り偏重の物ではなくなっています。ササニシキの特徴を持つ品種の育成については、期待に添えるように取り組んでいきたいと考えています。

○齋藤会長

いわゆるコシヒカリではなくて、今後開発が期待できると受け取ったのですが、よろしいでしょうか。

- 秋山委員
 ササニシキは何年たつのですかね、ここにきて米屋から、ササニシキが欲しいという要望があり面積を拡大しているが、いままでひとめぼれを作ってきた中でササニシキを作ることは技術が求められるがため、短かんなどの新しい系統が求められと思います。
 ササニシキにかわる米を作るのは難しいのかもしれませんが、期待していますのでよろしくお願ひします。
- 齋藤会長
 中鉢副会長何かありますでしょうか。
- 中鉢委員
 ササニシキの根強い授需要はありますが残念ながら主要な銘柄ではありません一部から要望があり、ひとめが20万トンに対してササニシキは1万トンである。コシやひとめにかわる大きな需要があるわけではなく、何か目新しい米はないかということで、バイヤーからの声がかかるのかもしれませんが。
- 齋藤会長
 やまのしずくに対して、系統が4日とか5日とか出穂が早いのは早すぎるのですよね、耐冷性が強ければ8に対して9で対応するのは乱暴かと思うのですが考え方を教えてほしい。
- 日塔幹事
 熟期については、早生の実施の山間高冷などで作っている感覚と大きく連れ無い程度で、3日くらいなら大丈夫かと考えている。やまのしずくは外観品質が低いので、そこも考えている。
- 齋藤会長
 強ければなんでもいいと考えているわけではないですよ。
 それではこれにつきまして、原案の通り適当であるとしてよろしいでしょうか。
- 齋藤会長
 それでは続きまして、平成26年度奨励品種決定調査に供する品種大豆について説明をお願いします。
- 日塔幹事
 (資料により、平成25年度 奨励品種決定調査成績概要及び平成26年度奨励品種決定調査に供する品種(大豆)について説明。
- 齋藤会長
 國分先生にお尋ねしたいのですが無限伸育型の多収性品種の育成でアメリカの状況を教えていただきたいのですがいかがでしょうか。
- 無限伸育イコール多収では、ありませんがアイオア州やイリノイ州では無限の方が多くなっています、南部では有限の方が多し状況となっています。私の想像では、南部ではできすぎて無限では倒伏や蔓化があつてどうしても導入できない。それに対して中西部では生育期間が短いので無限の特性が活かされると考えます。かなり主茎が伸びるのですが、生育期間が限られると多収になるようです。日本では多くの場合たおれます。日本では雨が多く、夏暑いので茎がのび1mを超える場合があり、かなり倒れます、ここで育成地が晩播をつけたのは、栄養成長が確保される条件では良いのではないのでしょうか。
- 齋藤会長
 目標で最下着莢高が高いとなっていますが、データでは比較品種が20Cmとなつてが、試験品種は12cmくらいで、一方収量が多いようなので、収量がとれると着莢高が低くなるのか、その影響なども検討されるといいかもしれません。
- 秋山委員
 晩播は麦との体系のようですが、麦は大麦ですか小麦ですか。

- 日塔幹事
小麦でも対応できるように7月中旬播種まで試験している。試験は大麦で小麦も視野に入れてということです。
- 秋山日塔幹事
晩播種はいつごろ播種したものでしょうか。
- 日塔幹事
A3の4ページをみてください。奨励品種決定調査の中でも6月下旬としています。
- 齋藤会長
それでは平成26年度の奨励品種決定調査に供する品種について東山231号を加えて、原案の通り適当であるとしてよろしいでしょうか。それでは適当といたします。
ここで昨年新たに奨励品種にした大豆あきみやびについて豆腐を提供いただけるという事でお願ひします。
- 日塔幹事
容器の赤い印があきみやび、もうひとつはおおすずで作った豆腐です。育成地の協力で太子食品に作っていただいたものです。
- 丸山委員あきみやぎは色が白くて、味も美味しくいただきました。
- 高橋委員 見た目が白いですね。香りが豊かな感じがしました。
- 高橋幹事 色が白く美味しく食べました。
- 佐野委員 あきみやびが木綿ぼく、あおばたに近い味がしました。
- 加藤委員 冷奴で食べて食べやすいのはおおすず、あきみやびは柔らかく感じたが、味噌汁には合うような印象がある。味かおりは変わらず美味しい。
- 國分委員 なめらかな感じがする。水加減が難しい。少し硬めに作ると美味しいと思います。
- 齋藤委員 答申案をまとめたのですが、これまで通りこちらで答申案を作り、適当と認めるとして答申させていただきますと思います。その他事務局何かありますでしょうか。
- 事務局(高橋班長)
ありがとうございました。
それでは、事務局より次回の審査会について御連絡させていただきます。当審査会につきましては、年2回開催させていただいておりますけれども、今回は9月が開催予定となっております。内容といたしましては、平成26年度の奨励品種決定調査に供する麦類の品種等について御審議を賜りたいと考えております。
具体の日程につきましては、開催時期が決まりしだい御連絡を申し上げたいと思いますので、委員の皆様には御出席のほどをよろしくお願ひいたします。
それでは、以上をもちまして本日の主要農作物品種審査会を終了させていただきます。委員の皆様には長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。